

若者から、ウォッシュのない ESG投資を目指して発信・行動する

鈴嶋克太

(特定非営利活動法人A SEED JAPAN・ESGウォッチプロジェクト担当理事)

A SEED JAPANでは現在、ESG金融に関する動きを注視（ウォッチ）し、課題の解決を目指すESGウォッチプロジェクトを展開している。特に投資信託に、そして解決すべき課題として「ESGウォッシュ（環境に考慮しているとうたいながら実際には考慮していないことを指す「グリーンウォッシュ」のESG版）」に着目し活動している。

投資信託に注目する理由としては、今、日本では20～30代の若年層を中心に、その保有率が急増していることがある。背景には、「預貯金だけでは資産が増えない」という認識や老後の年金不安、投資信託には低リスクで長期的に安定したリターンが期待されていることがある。今後、若い世代にとって資産形成の手段としてより身近になっていくだろう。

こうした中、ESGウォッシュが

投資信託の分野でも問題視され、日本でも金融庁により現状の整理と解決に向けた取組が次々に進められている。しかし、報道等でESGウォッシュという言葉が出始めたのは過去2年ほどのことであり、投資のハウツーを指南するネット上の情報でも、前述の現状と国内外の監督機関等による取組はあまり触れられていない。SDGsの認知度を9割とする調査結果もある中、今年3月にESGウォッチで実施したアンケート（大学生～30代を中心に約120人が回答）では、SDGs達成に向けた重要な概念ともいえる「ESG」の認知度は4割、「ESGウォッシュ」の認知度は3割程度にとどまった。

今後、ブログ記事・啓発冊子の作成、セミナーの実施などを通して、



遠隔地の学生メンバーも加わった活動ミーティングの様子（上）
昨年夏に出展したイベントの様子（下）

ESGや具体的なトピック（今年度は「脱炭素・気候変動対策」）に関する動向や研究者・NGO関係者の見解を分かりやすく発信し、若者の関心を高め、ウォッシュのないESG投資が行われる社会の実現に向けて行動していきたい。

特定非営利活動法人A SEED JAPAN理事
すずしまかつひろ
鈴嶋克太

A SEED JAPANは1991年設立。環境問題を経済や社会の構造から捉えることが行動指針。「構造」の一つに「お金の流れ」を位置づけ、過去には銀行の預金・融資に注目した活動を展開。ESGウォッチは2021年に始動した。

GEOC/EPOからのお知らせ

地域循環共生圏 パートナーシップ 基盤強化事業成果まとめ (R2～R4)

地方環境事務所及び地方EPOと企業や金融機関といった経済主体とのパートナーシップ構築を目的に実施した「地域課題の解決及び脱炭素社会の同時実現に向けた地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業」における3か年の成果をまとめました。

地域で地域と つながる つなげる
地域課題の解決及び脱炭素社会の同時実現に向けた
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業
成果まとめ (R2～R4)

GEOC
Global Environmental Outlook Center

2023年9月
地球環境パートナーシッププラザ（EPO）とGEOC
東京都 2023年10月発行



つな環編集部

星野智子、尾山優子、江口健介、鈴木良壽、守山幸子、
今井麻希子（順不同）

つな環

検索

「つな環」はインターネットからもご覧いただけます。
http://www.geoc.jp/information/tsunakan